

びわこ文化公園植物だより〔β版〕

ヘクソカズラ アカネ科

- ・学名 *Paederia scandens*
- ・公園内各所に自生



夏のさかりから秋にかけて、公園内のあちらこちらの低木や植え込みの中に、小さな白い花をつけたつる植物が巻き付いているのをよく目にします。ヘクソカズラです。このひどい名前は、葉をもむと悪臭がすることによります。見た目のかわいらしさと匂い・名前のギャップで、一度覚えたら絶

対に忘れない花です。

ヘクソカズラは有川浩(ありかわ・ひろ)さんの小説『植物図鑑』の中でも、重要な小道具として登場しています。有川さんの表現によれば、「中心が上品なえんじでふわりと染まった、フリルのようなカッティングの入ったベル形の小花」。植物学用語を使わなくても、こんなに正確に姿を表現できるなんて、さすが言葉のプロの表現力は違う……。

ところで、この花にはヤイトバナという別名があります。ヤイトというのはお灸のことですが、どこがお灸に似ているのでしょうか？ じつは二通りの説があります。一説は、花の中心部の赤く丸く染まった部分が、お灸のあとのかさぶたやあざに見えるからというもの。もう一説は、灰色にけばだつた花の円柱形の部分が、火をつける前のお灸に似ているからというもの。



そう説明されてもピンとこないのは、私たちがお灸自体を見ることが少なくなっているうえに、やけどあとの残らないように工夫された「無痕灸」のイメージしかもっていないためのようなようです。昔のお灸がどんなものが写真で見ると、綿くずのようなもぐさを細く丸めて肌の上に立てて火をつけているのですね。やけどあとが残るので「有痕灸」というそうです。ヘクソカズラの花をつみとって、花の中心部をちよつとなめてさかさまに肌の上に立てると、それっぽくなるようです。

さて、お灸のご経験をお持ちの皆さま、二つの説のどちらが正解と思われますか？

ヘクソカズラは漢方では「女青」とよばれ、さまざまな薬効をもっているとされます。最近ではヘクソカズラ抽出液にメラニン生成抑制効果があるという研究結果も報告されています。将来、臭くないヘクソカズラ美顔液ができるといいですね！

(龍谷大学農学部・岸涼子／吉野茜／三浦励一)

❁ ヘクソカズラは公園内各所に生えていますが、たとえば [ここ](#) で見るすることができます (クリックで Google マップにリンク。10m程度の誤差が出る場合があります)。